



ひきこもり等子ども・若者相談支援センター  
枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

平成27年度の記録

[資料編を除く]



枚方市子ども青少年部子ども総合相談センター

となとな



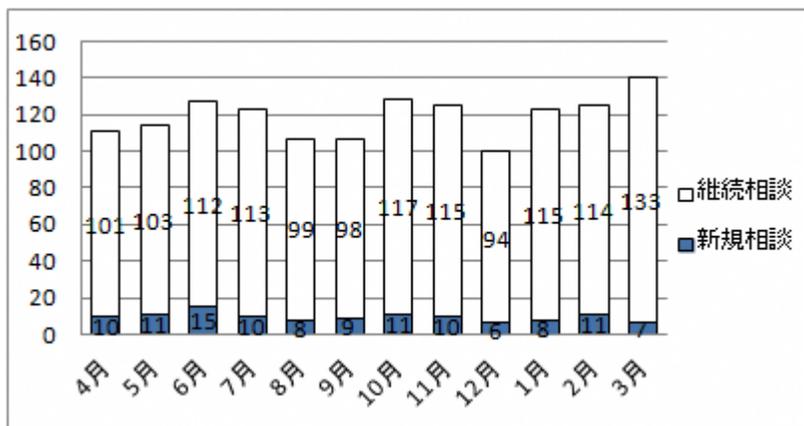
# 目 次

<b>【 1 】 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター</b>	
1. 平成27年度月別延べ相談件数	1 p
2. 場所	1 p
3. 相談員	2 p
4. 相談方法	2 p
5. 相談対象者	2 p
6. 相談内容	3 p
7. 支援内容	4 p
8. 職員の研修体制	7 p
9. 視察の受入	9 p
10. 実習生の受入	9 p
<b>【 2 】 市民啓発等</b>	
1. 子ども・若者支援のための市民連続講座	10 p
2. サポートフレンド養成講座	12 p
3. その他	13 p
<b>【 3 】 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議</b>	
1. 平成27年の活動状況	15 p
2. 平成27年度ネットワーク会議参加（案内）機関	17 p
3. 全体会議の会議録	18 p

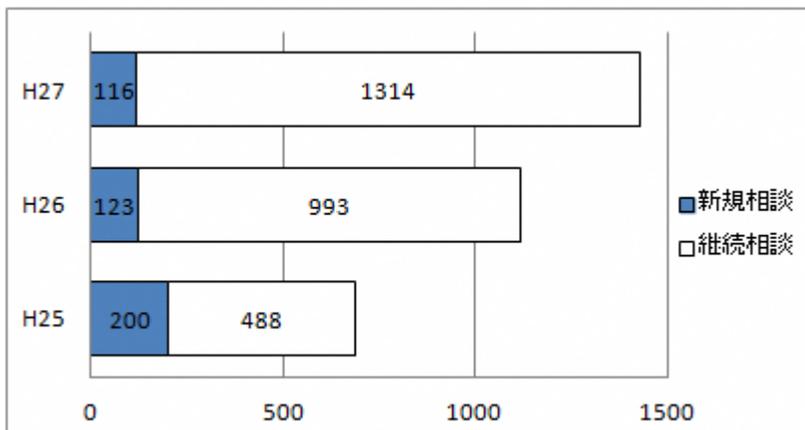
# 【1】 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター

## 1. 平成 27 年度月別延べ相談件数

新規相談が 116 件、継続相談が 1,314 件、合計延べ相談件数は 1,430 件でした。



継続相談の積み重ねが延べ相談件数の増加につながっています。



## 2. 場所

○ 枚方市役所子ども青少年課内

安心して相談していただけるよう、専用の相談室も引き続き設置しています。



### 3. 相談員

- 臨床心理士等の専門相談員が対応

社会福祉士1名、臨床心理士3名の4名体制で対応しています。

相談員のスキルアップのため、2か月に1回ひきこもり等の支援について外部講師より助言をもらうスーパービジョンを実施し、各種研修へも参加しました。また、相談員同士の情報共有の場を毎週1回、枚方若者サポートステーションとの共有会を月1回行いました。

### 4. 相談方法

- 電話相談と面接相談（専用電話を設置）

面接相談	1289
電話相談	141
計	1430

平成27年度は、面接相談が延べ1,289件、電話相談が延べ141件でした。直接お会いし時間をかけて相談をお受けすることが多いですが、相談者に応じて使いわけています。

### 5. 相談対象者

<年齢>

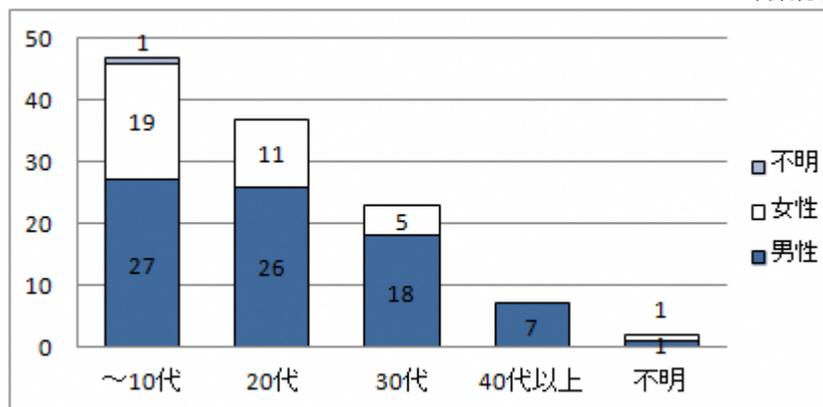
- 相談対象は、おおむね15歳（中学卒業後）から39歳まで（40代以上の方のご相談もお受けしています。）

平成27年度は、10代が一番多く、20代、30代と続きます。15歳から対象ということ考えると、10代の多さは特徴的です。また、一定数40代以上の方の相談もあるという現状がみられました。約7割が男性対象者についての相談でした。

年代×性別

	～10代	20代	30代	40代以上	不明	計	
男性	27	26	18	7	1	79	68.1%
女性	19	11	5	0	1	36	31.0%
不明	1	0	0	0	0	1	0.9%
計	47	37	23	7	2	116	
	40.5%	31.9%	19.8%	6.0%	1.8%		

（新規相談116件より）



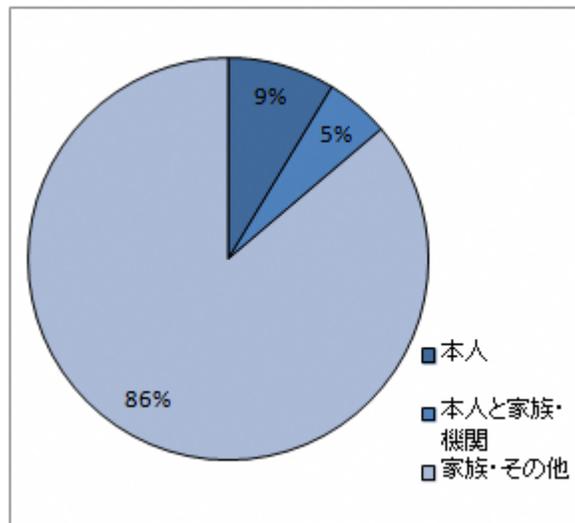
<相談者>

○ 相談は、ご本人とご家族、関係者の方が対象

—初回相談者—

本人	10	8.6%
本人と家族・機関	6	5.2%
家族・その他	100	86.2%
計	116	

初回相談は、86.2%がご家族からです。  
 まずはご家族との定期的な継続相談を続け、  
 徐々にご本人とつながっていくことを目指してい  
 きます。



—経路—

関係機関	37	46.3%
ホームページ	16	20.0%
広報(ひらかた便利帳含む)	10	12.5%
知人	3	3.8%
その他	14	17.4%

(新規相談の内、聴き取りを行った分)  
 やきょうだいが相談していることや、講演会、庁舎内の掲示案内板で知ったというものが  
 ありました。

ひきこもり等子ども・若者相談支  
 援センターを知ったきっかけは、関  
 係機関からの紹介が46.3%（市民相  
 談課、地域若者サポートステーショ  
 ン、保健所、家庭児童相談所など）、  
 ホームページや広報が次いで多くな  
 っています。

「その他」の中には、既にご家族

<居住地>

市内	96	82.8%
市外	10	8.6%
不明	10	8.6%
計	116	

対象は市内在住の方ですが、市外の方からの  
 相談もありました。一旦お聴きして、他市で利  
 用できる相談窓口の情報提供を行うまでの対応  
 をしています。

## 6. 相談内容

○ 相談内容は、ひきこもり、ニート、不登校に関するものが対象

平成27年度の相談内容は、ひきこもりと準ひきこもり相談が合わせて41.3%、続いて  
 不登校相談が21.0%、就労相談が12.6%でした。

ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計
19	40	30	4	18	32	143
13.3%	28.0%	21.0%	2.8%	12.6%	22.3%	

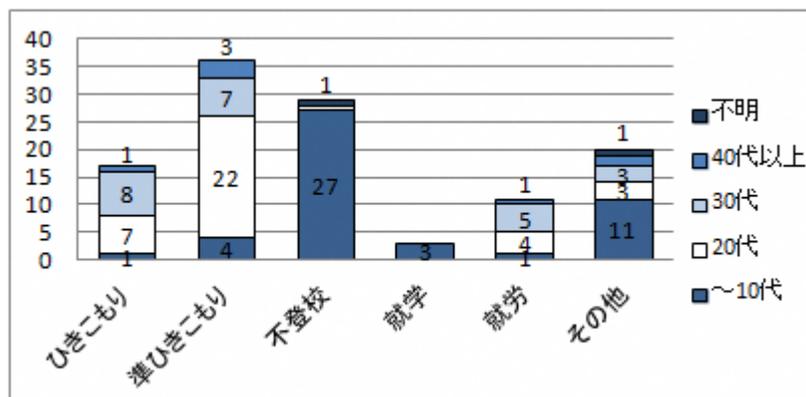
(相談内容の複数選択あり)

ひきこもりと準ひきこもり相談、就労相談は、20代と30代が中心ですが、それぞれ各年代からの相談がありました。

#### 年代×内容①

	ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計	
～10代	1	4	27	3	1	11	47	40.5%
20代	7	22	1	0	4	3	37	31.9%
30代	8	7	0	0	5	3	23	19.8%
40代以上	1	3	0	0	1	2	7	6.0%
不明	0	0	1	0	0	1	2	1.8%
計	17	36	29	3	11	20	116	
	14.7%	31.0%	25.0%	2.6%	9.5%	17.2%		

(新規相談 116 件より)



※年代と相談内容別の件数は、主な相談内容をひとつにして集計しています。

## 7. 支援内容

○ 1回の電話及び面接相談で、助言や適切な窓口につないで終了したケース

新規相談 116 件中、55 件でした。終了の例としては、適切な支援機関の情報提供や資源の整理、家族の関わり方についての助言を行ったものなどです。

(情報提供支援機関) 地域若者サポートステーション、枚方市保健所、家庭児童相談所、枚方公園青少年センター及び大阪府子ども家庭センターの青少年相談、大阪府発達障害者支援センター、通信制・定時制高校等の情報、他市相談窓口など(多かったものを抜粋)。

- 複数回の相談を重ねて助言や他機関へのつなぎをしたもの、または継続相談となっているケース

新規相談 116 件中、61 件でした。

平成 27 年度末で継続相談中のケースは 82 件です。その内、ご本人と継続相談中が 47 件、ご家族と継続相談中が 72 件です。ご家族とご本人両方の相談をお聴きしているケースも 37 件あります。

	H25	H26	H27
各年度、3.31時点で継続相談中	50	72	82
本人と継続相談中	17	36	47
家族と継続相談中	38	56	72
(内)本人と家族と並行で継続相談中	5	20	37

(H25年度からの継続相談も含む)

- 訪問支援

	H25	H26	H27
家庭訪問	22	40	53
同行訪問	11	18	25
計	33	58	78

継続相談の中で、必要に応じて訪問支援を行いました。

ご自宅へ伺って、ご本人のお話をお聴きする家庭訪問は、53 件、ご本人やご家族と一緒に各窓口へ同行する、同行訪問は、25 件ありました。

(同行訪問先) 居場所支援「ひらぼ」、地域若者サポートステーション、ハローワーク、市役所各窓口、福祉関係事業所、散策など

- 居場所支援「ひらぼ」

ひきこもり等の子ども・若者が社会に参加するきっかけとするためのスモールステップとしての居場所支援「ひらぼ」を、枚方公園青少年センターを中心に実施しています。相談支援センターの相談者を対象に、相談員との 1 対 1 の関係からステップアップし、5、6 人の集団での活動を通して社会とのつながりを築いていくことを目指します。実際の活動においては、専門のコーディネーターを設置し、「サポートフレンド養成講座」を受講したサポートフレンド(登録者 15 名)の協力を得て、料理やゲーム、スポーツや外出イベントなどの活動を行いました。また、NPO フェスタへの参加や、女性中心の会、月 1 同好会(男性中心)、地域の新聞販売店のご協力を得てポスティング体験など、選択肢の幅を広げ、様々な挑戦ができるよう工夫しています。

居場所支援と並行して、個別の面接相談も継続し、一人ひとりに合った支援を行っています。

平成 27 年度は、毎週水曜日と、月に 1 回最終金曜日、7 月からは他の曜日に月 2、3 回開催日を拡充し、開催が 73 回、参加延べ人数は 242 人でした（実人数 17 人／平成 26 年度は 7 人）。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所回数	5	4	5	8	7	6	7	7	6	5	6	7	73
参加延べ人数	14	9	10	24	20	18	20	20	30	21	17	39	242

平成 28 年 2、3 月には、2 回目のサポートフレンド養成講座を実施しました。

また、居場所支援に携わるサポートフレンド対象の研修を月 1 回、その他、子ども・若者にかかわる研修をサポートフレンド研修と位置づけフォローアップを行っています。

居場所支援「ひらぼ」を中心に、ひきこもり等子ども・若者相談支援センターの取り組みを広報するため、通信「ひらぼう」を発行しました。

#### ○家族の会

実施回数	12	月に 1 回、相談支援センターの相談者を対象に同じ悩みを持つ家族の相互理解や交流を目的として、家族の会を開催しました。
参加延べ人数	37	

平成 27 年度は実施が 12 回、参加延べ人数は 37 人でした。

自由に思いを語り合う時間を中心に、将来のための制度について等、職員から話題提供を行う時間も合わせて設けました。

4月	これからのこと、将来のこと、お金のこと。
5月	声のかけ方と話題。うまくできたこと、できなかったこと。
6月	はたらくこと。色々な仕事のかたち①
7月	はたらくこと。色々な仕事のかたち②
8月	子どもと一緒にできること
9月	フリートーク・近況報告
10月	合宿型の若者自立支援施設について
11月	DVD視聴 “NHKプロフェッショナル 仕事の流儀 谷口仁史さん”・意見交換
12月	DVD視聴 “ひきこもりをテーマにした映画 青少年自立援助センター・工藤定次さん”・意見交換
1月	フリートーク・近況報告
2月	市民連続講座『ひきこもっている子どもの未来－お金の面から考える－』の報告
3月	来年度に向けての意見交換

## 8. 職員の研修体制

### ○スーパービジョン

平成 25 年 9 月より、一般社団法人 office ドーナツトーク代表の田中俊英さんをスーパーバイザーに迎え、ケース検討を基本にしたスーパービジョンと相談体制や居場所のあり方などを助言・指導いただくコンサルテーションを実施してもらっています。

平成 27 年度は、2 か月に 1 度、2 時間ずつ実施。計 6 回おこないました。

### ○研修等への参加

#### ① アウトリーチ（訪問支援）研修

主催：内閣府

日時：(1)平成 27 年 8 月 31 日(月)～9 月 4 日(金)  
(2)平成 27 年 9 月 28 日(月)～10 月 2 日(金)  
(3)平成 28 年 2 月 1 日(月)～2 月 3 日(水)

場所：(1)国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）  
(2)特定非営利活動法人北陸青少年自立援助センター（富山県富山市）  
(3)国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加人数：1 人

#### ② 子ども・若者支援地域協議会設置促進事業 第 1 回合同研修会

主催：内閣府

日時：平成 27 年 7 月 13 日(月)～15 日(水)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加人数：2 人

#### ③ 子ども・若者支援地域協議会設置促進事業 第 2 回合同研修会

主催：内閣府

日時：平成 28 年 1 月 27 日(水)～29 日(金)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加人数：2 人

#### ④ 青少年相談機関に関するブロック連絡会議（近畿ブロック）

主催：内閣府

日時：平成 28 年 1 月 20 日(水)

場所：大阪府男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）

参加人数：1 人

#### ⑤ 平成 27 年度 大阪府ひきこもりサポーター養成研修事業

内容：訪問支援機関から見たひきこもり支援

主催：大阪府

日時：平成 28 年 1 月 22 日

場所：大阪府男女共同参画・青少年センター ドーンセンター（大阪府中央区）

#### ⑥ “シンポジウム” これからの豊中市若者施策に必要な視点

司会：樋口明彦（法政大学社会学部教授）

シンポジスト：金城隆一（NPO 法人沖縄青少年自立センターちゅらい代表理事）

松田孝（さっぽろ青少年女性活動協議会 札幌市若者総合センター館長）  
小林将元（NPO 法人フェルマータ理事）  
石田貴裕（NPO 法人淡路プラッツ統括マネージャー）  
白砂明子（一般社団法人キャリアブリッジ理事・統括責任者）  
大阪府 政策企画部 青少年・地域安全室 青少年課

主催：大阪府・豊中市・一般社団法人キャリアブリッジ

日時：平成 27 年 11 月 6 日（金）

場所：豊中市立青年の家いぶき

参加人数：1 人

⑦ 【こころのケア】シンポジウム

内容：脳科学から見た児童虐待

主催：兵庫県こころのケアセンター

日時：平成 27 年 11 月 19 日

場所：兵庫県こころのケアセンター（神戸市中央区）

参加人数：1 人

⑧ 臨床心理士研修

子どもの非行への理解と関わり方～子どもの傷つきや虐待・発達障害の視点から～

講師：橋本和明（花園大学社会福祉学部臨床心理学科教授）

主催：枚方市子ども青少年部家庭児童相談所

日時：平成 27 年 8 月 26 日（水）

場所：枚方市職員会館

参加人数：3 人

⑨ 第 1 回 枚方市子どもをはぐくむネットワーク

内容：自己紹介・各機関の役割と現状の報告、大阪府サポートセンターからの報告

主催：枚方市家庭児童相談所

日時：平成 27 年 7 月 17 日（金）

場所：教育文化センター

参加人数：4 人

⑩ 第 2 回 枚方市子どもをはぐくむネットワーク

内容：障害福祉室より報告、生活福祉室より報告

主催：枚方市家庭児童相談所

日時：平成 27 年 12 月 17 日（金）

場所：教育文化センター

参加人数：4 人

○新入相談員への研修

① 子ども・若者相談支援について

内容：フェルマータ見学・北大阪若者サポートステーションについて

日時：平成 27 年 4 月 28 日

場所：NPO 法人フェルマータ（大阪府高槻市）

② 子ども・若者相談支援について

内容：SST プログラムについて

日時：平成 27 年 6 月 25 日

場所：NPO 法人フェルマータ（大阪府高槻市）

③ 子ども・若者相談支援について

内容：枚方若者サポートステーションについて

日時：平成 27 年 6 月 9 日

場所：枚方若者サポートステーション（枚方市）

## 9. 視察の受入

① 岐阜県立看護大学他（5 人）

日時：平成 27 年 10 月 6 日（火）～7 日（水）

② 愛知県岩倉市議会

日時：平成 27 年 10 月 15 日（木）

## 10. 実習生の受入

大阪経済大学と協定書を交わし、同大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻の大学院生を受け入れることとなりました。

平成 27 年度は、前期に 1 人受け入れ、主に居場所支援「ひらぼ」での支援に従事してもらいました。

## 【2】市民啓発等

### 1. 子ども・若者支援のための市民連続講座

—ひとりひとりが自分らしく—

ひきこもり等の問題とひきこもり等子ども・若者相談支援センターについて、市民により広く、深く知っていただくために連続講座を企画しました。

平成27年度は、内閣府の実施する「子ども・若者支援地域協議会設置促進事業」（協議会未設置地域対象）に参加しており、同事業の課題把握・啓発のための「地域住民を対象とした公開講座」として実施しました。

5回実施し、延べ215名の参加をいただきました。関係機関や相談を行っている当事者（親）の参加も多く、ひきこもり等の若者の現状と支援について理解を深める機会となりました。

#### 第1回

日時：平成27年9月12日（土） 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ： 困難を有する若者の現状—見えない未来—

講師：古賀 正義さん（中央大学文学部教授）

参加者：32人



#### 第2回

日時：平成27年10月4日（日） 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ： 日本社会の変容と若者の現状

講師：本田 由紀さん（東京大学大学院教育学研究科教授）

参加者：42人



#### 第3回

日時：平成27年11月7日（土） 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ： ひきこもり支援の現場から

講師：工藤 定次さん（特定非営利活動法人青少年自立援助センター理事長）

参加者：51人



第4回

日時：平成27年11月28日(土) 15:00～17:00

場所：メセナひらかた会館 視聴覚室

テーマ：医療機関から見たひきこもりと回復へのアプローチ

ー本人と家族が一步先に進むためにー

講師：岡崎 剛さん（三家クリニック臨床心理士・  
メンタルワークス大阪代表）

参加者：53人



第5回

日時：平成28年1月9日(土) 14:00～16:00

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）研修室1

テーマ：ひきこもっている子どもの未来ーお金の面から考えるー

講師：浜田 裕也さん（ファイナンシャルプランナー）

参加者：37人



## 2. サポートフレンド養成講座

居場所支援「ひらぼ」にて若者のみなさんとともに過ごし、自立に向けた活動をサポートして下さるボランティアスタッフであるサポートフレンドの養成講座を実施しました。

3回の講座を実施し、35人より申し込みをいただきました。最終的に23人がサポートフレンドとして登録されました。

### 第1回

日時：平成28年2月19日（金）14:00～16:00

場所：ラポールひらかた 研修室2

テーマ：ひきこもり等の子ども・若者支援 ～若者理解と支援の実際～

講師：田中 俊英さん（一般社団法人officeドーナツトーク代表）

参加者：27人

### 第2回

日時：平成28年3月2日（水）14:00～16:00

場所：枚方公園青少年センター 和室

テーマ：居場所支援の役割 ～「ひらぼ」の現場より～

講師：小田 純也さん（居場所支援「ひらぼ」コーディネーター）

南波 英和さん（ひきこもり等子ども・若者相談支援センター相談員）

参加者：29人

### 第3回

日時：平成28年3月10日（木）14:00～16:00

場所：ラポールひらかた 研修室2

テーマ：これからの子ども・若者支援 ～講座をふりかえって～

講師：宮原 輝彦さん（枚方公園青少年センター青少年相談・相談員）

参加者：27人

### 3. その他

#### 〈1〉 青少年サポートマップ

平成23年度から作成（当初は枚方公園青少年センターで）している、枚方市内の青少年の相談機関等をA3裏表で紹介する青少年サポートマップ第4版を作成しました。各掲載機関の情報を最新のものに更新し、27の相談窓口や家族会・当事者会を掲載しました。6,000部印刷して相談の現場で活用する他、関係機関や市の窓口職場に配布しました。

#### 〈2〉 青少年サポートブック

平成27年度は、枚方市内の青少年の相談窓口について、より詳細にまとめた冊子を作成しました。青少年支援に関わる窓口や、社会資源に関する窓口など、サポートマップに未掲載の機関についても、新たに紹介しました。500冊印刷し、相談の現場で活用する他、関係機関に配布しました。

市民連続講座と同じく内閣府の実施する「子ども・若者支援地域協議会設置促進事業」（協議会未設置地域対象）として実施しました。同事業の課題把握・啓発のための「社会資源の把握と支援機関マップの作成」として作成しました。

#### 〈3〉 職員による出前講座

生涯学習課で実施している「職員による出前講座」に「若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に」「青年期の心模様」の2つをメニューとして上げています。平成27年は、3回申込があり、それぞれ実施しました。

① 団体名：枚方ソーシャルワーク研究会

日時：平成27年10月23日(金)19:00～20:45

場所：枚方市民会館 参加者：50人

テーマ：若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に－

② 団体名：枚方市民生委員児童委員協議会 菅原地区委員会

日時：平成27年11月26日(木)11:00～12:00

場所：菅原生涯学習市民センター 参加者：65人

テーマ：若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に－

③ 団体名：平野校区青少年を守る会

日時：平成28年2月18日(木)19:30～20:30

場所：平野小学校 参加者：60人

テーマ：若者の置かれている現状－ひきこもり・ニートを中心に－

#### 〈4〉 青少年育成指導員研修

枚方市で各校区からの推薦を受け市長から委嘱され、青少年の健全育成のために活動されている。青少年育成指導員の北部ブロックの研修会に講師として出席しました。

日時：平成28年3月13日(日)10:00～12:00

場所：メセナひらかた会館 参加者：40人

テーマ：若者の置かれている現状 -ひきこもり・ニートを中心に-

#### 〈5〉 「枚方市こころの電話相談」 平成27年度電話相談ボランティア養成研修

こころの電話相談で相談員としてボランティアを希望される方々に対し、要請研修の一環として枚方市におけるひきこもり等支援についての研修をおこないました。

日時：平成27年7月18日(日)13:30～15:30

場所：枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた）

テーマ：若者の置かれている現状 -ひきこもり・ニートを中心に-

#### 〈6〉 自治大阪 頑張ってます！まちづくり

大阪府市町村課が、市町村の発展向上及び職員の資質向上に役に立つ情報を掲載しているインターネット上の冊子「自治大阪」平成27年7月号の「頑張ってます！まちづくり」のコーナーに「枚方市におけるひきこもり等の支援の取り組み」の記事を掲載しました。

[http://pref.osaka.lg.jp/shichoson/jichi/ganmachi\\_hirakata.html](http://pref.osaka.lg.jp/shichoson/jichi/ganmachi_hirakata.html)

## 【3】枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議

### 1. 平成27年度の活動状況

ひきこもりやニート、不登校などの相談機関・関係機関のネットワーク構築のため、平成24年6月より枚方市内で活動している各関係機関に呼びかけて、枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議（以下、ネットワーク会議という）を開催しています。

平成27年度は、偶数月に全体会議を奇数月に世話人会議を開催しています。世話人会議で次の全体会議のテーマを決めたりネットワーク会議の方向性を検討したりしています。全体会議のテーマは、年間で医療、教育、労働（雇用）等から満遍なく取り上げるよう工夫しています。また、昨年度に引き続き2月に家族会との意見交換会を実施しました。12月には、京都府のネットワーク「チーム絆」と意見交換をおこないました。

また、ケースカンファレンスを年3回実施しました。問題解決を図るための会議ではなく、学習会的な目的のカンファレンスとしました。

#### ○子ども・若者支援地域協議会設置促進事業

平成27年度は、内閣府が主催する子ども・若者支援地域協議会設置促進事業に参加しました。3年をかけて子ども・若者育成支援推進法に定める地域協議会の設置を目指す事業で、枚方市としては参加1年目であり、課題把握・啓発段階地域対象自治体として、「子ども・若者の支援体制の整備」と「合同研修会への参加」のほか、「地域住民を対象とした公開講座(5回)」「社会資源の把握と支援機関マップの作成」「複数部局にまたがる「連絡会議」の開催(3回)」を実施することとなっていました。

「地域住民を対象とした公開講座」は、毎年おこなっている「子ども・若者支援のための市民連続講座」として実施。「社会資源の把握と支援機関マップの作成」については、今回新たに「青少年サポートブック」を作成。「複数部局にまたがる「連絡会議」の開催」については、ネットワーク会議の第3回～5回の3回分を充てました。

7月と1月に実施された合同研修会には、2人ずつ参加し、地域協議会設置を目指す自治体の担当職員と交流をおこないました。

2月に実施した第6回全体会議では、内閣府の担当職員が参加し、意見交換をおこないました。

実施日	会議名	内 容
4月16日	第1回全体会議	①各機関の活動紹介 ②今年度の予定
5月15日	第1回ケースカンファレンス	事例提出:枚方市保健所、枚方若者サポートステーション
5月21日	第1回世話人会議	次回全体会の内容検討
6月18日	第2回全体会議	①大阪府立精神医療センターの見学と説明 ②NPO 法人陽だまりの会のあゆみ
7月16日	第2回世話人会議	次回全体会の内容検討
8月20日	第3回全体会議 内閣府 子ども・若者支援 地域協議会設置促進事業	高校内における居場所支援について ・NPO 法人志塾フリースクール(寝屋川高校定時制の課程) ・NPO 法人み・らいず (大手前高校定時制の課程) ・大阪府 青少年課
9月24日	第3回世話人会議	次回全体会の内容検討
9月24日	第2回ケースカンファレンス	事例提出:枚方市人権まちづくり協会、子ども青少年課
10月15日	第4回全体会議 内閣府 子ども・若者支援 地域協議会設置促進事業	①ハローワーク枚方の見学と現在の雇用状況 ②ホースフレンズ事務局(枚方若者サポートステーション)より昨年度の「中間的就労の場づくり支援事業」の総括
11月19日	第4回世話人会議	次回全体会の内容検討
12月11日	第5回全体会議 内閣府 子ども・若者支援 地域協議会設置促進事業	京都府ひきこもり訪問支援「チーム絆」との意見交換 (京都府 家庭支援総合センターにて)
1月21日	第5回世話人会議	次回全体会の内容検討
1月25日	第3回ケースカンファレンス	事例提出:児童生徒支援室、大阪府立大手前高校(定時制の過程)
2月18日	第6回全体会議	①内閣府との意見交換 ②家族会との意見交換
3月16日	第6回世話人会議	次回全体会の内容検討、来年度の計画

## 2.平成27年度 ネットワーク会議参加（案内）機関

枚方公共職業安定所（ハローワーク枚方）  
大阪府中央子ども家庭センター  
大阪府精神医療センター  
枚方市民生委員児童委員協議会  
枚方市社会福祉協議会  
NPO法人枚方市人権まちづくり協会  
枚方市地域就労支援センター  
枚方市いきいきネット相談支援センター（社会福祉協議会・人権まちづくり協会）  
枚方若者サポートステーション（NPO法人ホースフレンズ事務局）  
北大阪若者サポートステーション（NPO法人フェルマータ）  
大阪府若者サポートステーション（NPO法人スマイルスタイル）  
東大阪若者サポートステーション（社会福祉法人つむぎ福祉会）  
OSAKAしごとフィールド  
枚方市障害者自立支援協議会幹事会（NPO法人パーソナルサポートひらかた・社会福祉協議会）  
枚方市障害者就業・生活支援センター（社会福祉法人であい共生舎）  
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター  
長尾谷高等学校  
ECC学園高等学校  
大阪府立寝屋川高等学校（定時制の課程）  
大阪府立大手前高等学校（定時制の課程）  
近畿情報高等専修学校  
枚方市教育委員会 教育相談課  
枚方市 地域振興部 産業振興課  
枚方市 福祉部 障害福祉室  
枚方市 福祉部 生活福祉室  
枚方市 健後部 枚方市保健所 保健予防課  
枚方市 健康部 保健センター  
枚方市 子ども青少年部 家庭児童相談所  
枚方公園青少年センター  
枚方市 子ども青少年部 子ども青少年課（事務局）

以上30機関

### 3. 全体会議の会議録

会議の名称	平成 27 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 1 回 全体会＞	
開催日時	平成 27 年 4 月 16 日（木）	14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	メセナひらかた会館 特別会議室	
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 枚方保健所：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 障害福祉室：1 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：2 人 生活福祉室：2 人 枚方若者サポートステーション：2 人 寝屋川高校：1 人 枚方市障害者就業・生活支援センター：1 人 長尾谷高校：1 人 ひらかた市民活動支援センター：2 人 家庭児童相談所：1 人 ひらかたハートセラピー協会：1 人 若者支援全国協同連絡会議：1 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 保健センター：1 人 子ども青少年課：4 人 <p style="text-align: right;">参加者計 25 人</p>	
	< 案件 1 各機関からの自己紹介 > (枚方保健所)ひきこもりの家族の会に毎月 10 名程度参加がある。親の高齢化が問題になってきている。  (枚方公共職業安定所)平成 27 年 3 月 30 日より生活困窮者の常設窓口設置。枚方市の紹介を通して利用していただく。  (枚方市障害者就業・生活支援センター)定着支援に力を入れている。利用に関して年齢制限はない。利用の際、手帳なしでも、相談は受けられる。しかし、雇用率のカウントの兼ね合いで雇用に繋がるのが難しい場合もある。  (枚方市いきいきネット相談支援センターCSW)について説明していただく。校区の福祉支援活動として、高齢者サロン、子育てサロン等での出張相談も行っている。  (生活福祉室)平成 27 年 4 月より生活困窮者自立支援法施行に伴い、相談窓口を開設。相談	

員 4 名。広報を見て来室される方が多い。学習支援については今年度中に実施予定。

(枚方若者サポートステーション)ひきこもり支援については、今年度より大阪府からの委託ではなくなった。独自に運営しており、一部利用料が必要な活動もある。

(精神医療センター)依存症の拠点病院となった。主に薬物依存について取り組んでおり、ギャンブル依存の治療について進めている。児童福祉法、精神保健福祉法に基づく入所施設「たんぼぼ」と児童・思春期病棟がある。児童・思春期外来については予約が混み合っている状況。

(寝屋川高校)教師 1 名、学習支援員 1 名の体制で教室外登校を実施。学習支援員が不足している。

(子ども青少年課)子ども青少年課の新年度の職員体制について報告。ひきこもり等子ども・若者相談支援センターの平成 24 年度、平成 25 年度の活動記録報告書に基づき報告を行った。

※その他機関は資料参照。

#### < 案件 2 ネットワーク会議の今年度の活動予定 >

(子ども青少年課)ケースカンファを 5 月、9 月、1 月に予定している。初回は 5 月 15 日に実施予定。枚方若者サポートステーションと枚方保健所に事例提供していただく。市民啓発事業として連続講座、ならびにサポートフレンドの養成講座を実施予定。前年度の反省をふまえて、時期を早め、講座間隔をあける。また、講座の夜間や土日の実施を検討。さらに平成 26 年度活動報告書の作成。

(ひらかた市民活動支援センター)現在、相談窓口が色々ある。全体的、系統的な支援が必要ではないか。断ち切れになったり、忘れられたりするようなケースにどのように関わっていくか。それらのケースにどのように対応するか。個人情報保護に配慮しながら、困難なケースについて検討していく必要があると思われる。

(若者支援全国協同連絡会)「親から子へ希望のかけはしー生活マニュアルハンドブッカー」の紹介していただく。長崎県佐世保市の N P O 法人フリースペースふきのとうによって作成。行政、親、当事者の協同で作られている。枚方市でも作成してもらいたい。

(枚方若者サポートステーション)ネットワーク会議への参加を始めて、支援の方法が変わった。これまでは自身の機関だけで対応しようと考えることが多くあったが、ネットワーク会議の参加を通して、より専門家がいたら、そちらにお願いする、協力するということが増えて良かった。ひきこもりの分野だけでなく、市民全体にネットワークの考えが広がっていくと良いと思う。

(ひらかた市民活動支援センター)マップをより具体化したものがあれば、利用される方に

とって便利。対象別、問題別に分かれてみると分かるようなもの。利用者さんの見通しがつくようなものがあればよい。

<次回会議>

- ・平成27年6月18日（木）14時より開催予定。

以上

会議の名称	平成 27 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 2 回 全体会＞
開催日時	平成 27 年 6 月 18 日（木） 14 時 00 分から 16 時 30 分まで
開催場所	大阪府立精神医療センター
出席者	枚方市いきいきネット相談支援センター：3 人 枚方公共職業安定所：1 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 若者支援全国協同連絡会議：1 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 枚方市障害者就業・生活支援センター：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人 ひらかたハートセラピー協会：1 人 寝屋川高校：1 人 NPO 法人陽だまりの会：1 人 児童生徒支援室：1 人 保健センター：1 人 生活福祉室：5 人 家庭児童相談所：1 人 子ども青少年課：4 人 参加者計 28 人
<p>＜案件 1 大阪府立精神医療センターの見学と説明＞</p> <p>※二組に分かれて交互に見学と説明を実施。資料は別紙参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府立精神医療センターについて（NM精神保健福祉士） 緊急病院指定医療機関として 365 日 24 時間、入院の受け入れに対応している。処遇困難事例の受け入れなどもあり、民間病院等に比べると、非同意の入院の割合が多い。薬物依存の入院が出来る。児童思春期外来病棟、医療観察法病棟、訪問看護、デイケア、作業療法センターの設置。</li> <li>・児童思春期病棟ひまわり部門について（NM精神保健福祉士） 主に中学生から 18 歳未満が対象となり精神保健福祉法に基づく入院病棟。入院の目的や入院時のプログラム、退院時の支援等について説明していただく。</li> <li>・児童思春期病棟たんぼぼ部門について、児童思春期外来について（NY精神保健福祉士） たんぼぼ病棟では、児童福祉法に基づき、入所施設も兼ねている。また、児童思春期外来の初診時の受付の流れについて説明いただく。初診については、診断初診と一般初診に分かれており、発達障害の診断や相談に関する診断初診については、未就学児の受診が多い状況。幼稚園や保育所の入所前や小学校入学前の相談が多い。</li> <li>・ひまわり合宿について</li> </ul>	

不登校や引きこもりの中学生を対象とした“ひまわり合宿”を今年度より実施予定。児童思春期病棟ひまわり部門にて3か月入院し、同年代の仲間との関わりやプログラムを通して、自信を回復していくことを目的としている。本人が入院を希望している方が対象となる。

- ・児童思春期病棟見学

居室、詰所、浴室、食堂、学習室等見学させていただく。思春期部門については、常に満床に近い状況。2～3か月での退院を目標としている。児童部門に関しては、医療センター退所後の施設入所の受け入れ時期等によって、入所人数の変動がある。

< 案件2 NPO 法人陽だまりの会のあゆみ >

※資料は別紙参照

- ・NPO 法人陽だまりの会のあゆみ

精神障害者の置かれている状況について、陽だまりの会のあゆみとともに紹介していただく。陽だまりの会は、当事者自身がメインで動けるような場作りとして始まった。精神障害者は病気の再発を機に、これまでの生活を維持することが困難な場合が多々あり、退院後のフォローなど支援の連続性を保てるようにしていくことが課題である。

- ・陽だまりの会の20周年記念のDVDの視聴

陽だまりの会での当事者の活動の紹介や会に参加することへの感想など語られたDVDを視聴する。

以上

会議の名称	平成 27 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 3 回 全体会＞
開催日時	平成 27 年 8 月 20 日（木） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	メセナひらかた会館 4 階特別会議室
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 民生委員児童委員協議会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 若者支援全国協同連絡会議：1 人 枚方市障害者就業・生活支援センター：1 人 ひらかたハートセラピー協会：1 人 寝屋川高校：1 人 児童生徒支援室：1 人 保健センター：1 人 生活福祉室：2 人 障害福祉室：1 人 保健所：2 人 家庭児童相談所：1 人 子ども青少年課：5 人 報告者 大阪府：1 人 志塾：3 人 み・らいず：1 人 参加者計 24 人
	<p>＜案件 1 出席者より自己紹介と近況報告＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども青少年課より、子ども・若者支援のための市民連続講座（資料①）と、「ひらぼう第 5 報」（資料②）の案内。</li> <li>H 氏より、「社会的」ひきこもり・若者支援近畿交流会の案内（資料③）。</li> <li>生活福祉室より、枚方市自立相談支援センターの紹介（資料④）。</li> </ul> <p>＜案件 2 高校における居場所支援について＞</p> <p>○大阪府政策企画部青少年・地域安全室青少年課より、大阪府の平成 27 年度高校内における居場所のプラットフォーム化事業について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詳細は、資料⑤。</li> </ul> <p>○NPO 法人志塾フリースクーより、寝屋川高校定時制の課程における居場所支援について紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詳細は、資料⑥。</li> </ul> <p>○NPO 法人み・らいずより、大手前高校定時制の課程における居場所支援について紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詳細は、資料⑦。</li> </ul> <p>○質疑応答、意見交換。</p>

- ・ (H氏) 高校の中に入るといふことで難しさもあると思うが、府教育委員会との連携の状況はどうか。また、高校とサポステとの連携事業は1年で終了したが…
- ・ (大阪府) 学校によって抵抗感があるところもある。理解のある学校から実績を重ねていく方法でひろげている。府教育委員会とは情報共有しながら進めている。事業の成果をみていく検討委員会に、SSWのスーパーヴァイザーや府教育委員会にも入ってもらっている。  
事業の継続について。平成24年から国の予算をつかってやってきている。27年度は、地方創生の予算を使っている。これが5年と言われているので、それまでは継続すると思っている(方針が変わらなければ)。
- ・ (H氏) →寝屋川高校内の居場所での基礎学力支援と、学校のカリキュラムとの調整はどのようにしているのか。また、生活支援についてはどのような状況か。
- ・ (志塾) 学校の0限授業で使っているプリントがあり、これを生徒がするときにサポートしている。0限授業のプリントでサポートしきれない生徒(学力的に更に前段階の生徒)に対しては、志塾の教材を使うこともある。えんがわプロジェクトではまずは来所してくれる生徒が対象となるため、生活支援については、事前に先生と情報共有をすること、来所してくれた生徒の中で、様子を先生にお返しすることによる。
- ・ (H氏) →大手前高校の校内委員会による支援の具体を教えてください。また、校内委員会が機能しているということが重要になると思うのだが、校内委員会を組織することのポイントは？
- ・ (み・らいず) 校内委員会では、卒業年度の生徒については進路についてのプランニングや支援方針を共有。生活支援が必要なケースだと、先生が親にアプローチし、学校内居場所が子どもに支援をするなど、打ち合わせなどしている。府の事業といふことで学校には入りやすいのかもしれないが、大手前高校の場合はキーパーソンとなる先生がいてくれたこと、桃谷高校の場合は元々支援体制ができていたことがポイント。まだまだそのような体制がない学校もある。地道に職員室に入っていく関係作りをしている学校もある。
- ・ (子ども青少年課) 高校生の不登校の相談ケースについて、転校を考えたとき、まず高校内居場所につながってから入学を考えるという方法はとれるか。在校生にとっての中間的居場所だが、これから入る生徒の中間的居場所として使う可能性はあるか。
- ・ (志塾) 志塾としてもっている資源をつかって、その子のニーズに合わせて相談を受けることはできかと思う。
- ・ (み・らいず) この事業は、学校メインで、プラスαとしての居場所機能という関係性ではある。学校側の判断にもよるので相談してもらえれば。
- ・ (寝屋川高校) 年に数回学校説明会がある。その他でも個別に見学に来てもらってよい。
- ・ (寝屋川高校) 先生と生徒の声として。教員の対応できない時にじっくり時間をかけて生徒に関わってくれるのでありがたい。パソコン講座や理科実験が楽しみ。利用者同士の横のつながりができてきた。課題として、利用生徒の固定化、本当に必要な子どもにつながっていない場合もある。等々。
- ・ (志塾) 学習支援が強みと特徴であるので、勉強がしたいと思ってくる生徒への支援と、居場所として来る生徒への支援とのバランスが課題。先日、理科の実験として、コーヒを入れてお菓子を食べる会を行ったのだが、楽しく来てくれていた。
- ・ (み・らいず) 桃谷高校では3年目となった。支援が定着してきたことはいい面でもあ

る。大手前では、オープンな日とは別に、挑戦としてクローズの日を作ってみた。個別にねらいをもって、先生からつないでもらった生徒を対象にしたもの。

- ・（子ども青少年課）校内居場所支援において、親への関わりはあるか。
- ・（志塾）直接の関わりはない。親に対しては、来所した生徒について、先生と理解を共有することで間接的に関わるというもの。
- ・（み・らいず）直接はない。校内居場所では子がメイン。校内委員会で、親は先生が対応、子どもは校内居場所に対応するというプランを立てることがあるが、役割分担している。
- ・（枚方サポステ）校内居場所の終着点のイメージは？
- ・（志塾）先生個人で対応するのではなく、チームを作るということではないか。
- ・（大阪府）必要な支援につながるようしくみ、制度化できるといい。
- ・（み・らいず）居場所は出逢いの場であり入り口。プラットフォームを学校の中に作るということが終着点か。
- ・（寝屋川高校）学校にできることには限りがある。SSWによるケースの見極めと、資源につなげる動きはとても助かる。
- ・（教育委員会）市教育委員会から高校への情報提供は、学校任せになっているのが現状。これだけの資源や情報があるので、保護者につないでいきたい。枚方市でSSWは小中ほぼ全校配置。

<次回開催予定>

- ・ 10月15日（木）14時～

以上

会議の名称	平成 27 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 4 回 全体会＞
開催日時	平成 27 年 10 月 15 日（木） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	ハローワーク枚方・メセナひらかた会館 4 階特別会議室
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 大阪府中央子ども家庭センター：1 人 大阪府立精神医療センター：1 人 民生委員児童委員協議会：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 若者支援全国協同連絡会議：1 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人 ECC 学園高等学校：1 人 長尾谷高校：1 人 児童生徒支援室：1 人 保健センター：1 人 生活福祉室：1 人 障害福祉室：1 人 保健所：2 人 家庭児童相談所：1 人 子ども青少年課：4 人 参加者計 23 人
<p>＜案件 1 ハローワーク枚方の見学＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 班に分かれて、施設内を見学。各種相談窓口について説明を受ける。</li> <li>・ ハローワーク枚方は、マザーズコーナー・福祉人材コーナーを開設している点が特色。</li> </ul> <p>＜案件 2 出席者より自己紹介と近況報告＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども青少年課より「ひらぼう第 5 報」（資料①）の案内。</li> <li>・ 社会福祉協議会より「ほっこりひらかた 2015」についての案内（資料②）。</li> <li>・ 生活福祉室より、生活困窮者自立支援の本年度の経過について説明。</li> <li>・ 保健所より「こころの体温計」の紹介（資料③）。</li> </ul> <p>＜案件 3 ハローワーク枚方より現在の雇用・求人状況、若者支援について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハローワーク枚方より説明（資料④・⑤）。求人状況については、大阪府内では、平成 27 年度 8 月における有効求人倍率が 1.22 倍。1 倍を超える状況が続いている。枚方管内においては、0.58 倍。</li> <li>・ 新規求人については、例年 1 月に多い傾向。求人が継続され、3 月・4 月の求人数が多い。</li> <li>・ 職種別の有効求人倍率に関しては、事務職の希望が非常に多く、有効求人倍率が他の職種と比べて低い状況。介護職に関しては有効求人倍率が高く、人手不足の状況である。</li> </ul>	

- ・ 年齢別求職者数より、25歳から34歳の求職者数が多年齢と比しても多いことが特徴。また、多くの人が事務職を希望している。能力や経験などから、適正を考えた求職活動が必要となる。
- ・ 三市合同企業就職説明会について（資料⑥）。事前申込の必要はなく、履歴書を持参していただければ、その場で、参加企業と面接が可能。

#### ■質疑応答・意見交換

- ・ （S氏）：求職者訓練の年齢制限について。年齢制限などあるか。
- ・ （ハローワーク）：年齢制限を設けているものもある。65歳を基準としているもの、35歳以下を対象としているものもある。老齢年金の受給者の場合、受講できない訓練もある。
- ・ （H氏）：若者支援の支援期間について。2か月となっているが、継続されることもあるのか？
- ・ （ハローワーク）：2か月で就労につながらず、延長し継続しているケースも多くある。

#### <案件 4 ホースフレンズ事務局(枚方若者サポートステーション)より「中間的就労の場づくり支援事業」の総括>

- ・ 大阪府からの委託を受けて実施。雇用契約をせずに、訓練として就労を体験する。支援を要さずに一般就労を目指すことを最終目標とする。
- ・ 3か月1クール。一日3時間の就労訓練。報酬金として、1日500円。週に2日の参加から開始し、段階的に訓練日数や役割を広げる。
- ・ 最初の3か月は5名参加。次の3か月も5名参加。第3期は、2グループで実施し、11名参加。
- ・ コミュニケーション、生活リズム・体力づくり、ビジネススキルを3点より支援。
- ・ 利用者の半数が一般就労につながり、効果的な支援である。

#### ■質疑応答・意見交換

- ・ （S氏）：支援スタッフの人数はどのくらいか。
- ・ （サポステ）：スタッフ5名。手厚い支援体制。毎回、個別の振り返りも実施。
- ・ （H氏）：大阪府としての事業の総括はどのように考えているのか。
- ・ （サポステ）：自主事業として継続することを望んでいた。自主事業として継続している団体もある。大阪府としては、高校のプラットフォーム化とひきこもり等の中間的就労とどちらも継続を考えていたようだが、高校のプラットフォーム化のみ継続事業となった。
- ・ （子ども青少年課）：就労効果も非常に高いことに関してはどう考えているか。
- ・ （サポステ）：元気になる時間が早い。訓練生同士の結びつきが生まれ、役割分担が出来ていた。仲間がいることで効果が高かったように思う。

#### <案件 5 その他>

- ・ N氏：とれぶりんかのトリプルバドミントンについての説明（資料⑦）。世代や課題をこえて、交流できる場として多くの方に参加してもらっている。
- ・ H氏：先日の岐阜県からの視察について。枚方市子ども・若者相談支援センター、枚

方若者サポートステーション、保健所を視察した。多くのことを学び帰ったと感謝の連絡を頂いた。

<次回開催予定>

- ・ 第5回 全体会議 12月11日（金）京都府ネットワーク会議との交流を予定

■今後の予定

平成28年1月 第3回ケースカンファレンス

児童生徒支援室・大手前高校より事例提供予定

平成28年2月 第6回 全体会議

家族の会との交流を予定

以上

会議の名称	平成 27 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 5 回 全体会＞
開催日時	平成 27 年 12 月 11 日（金） 13 時 30 分から 15 時 30 分まで
開催場所	京都府家庭支援総合センター
出席者	大阪府中央子ども家庭センター：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 保健センター：1 人 若者支援全国協同連絡会議：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人 障害者就業・生活支援センター：1 人 保健所：1 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：1 人 子ども青少年課：3 人 枚方の参加者 13 人 「チーム絆」の参加者 14 人
<p>○「チーム絆」との合同研修・交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府家庭支援総合センターにて、京都府のひきこもり支援団体ネットワーク「チーム絆」との合同研修を行った。京都府、枚方市それぞれの参加者の自己紹介がなされた後、小グループに分かれての意見交換の時間が設けられた。</li> </ul> <p>＜自己紹介＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府家庭支援総合センターより、京都府におけるひきこもり支援について紹介がされた。「チーム絆」は民間の支援団体を中心に、居場所や学習サポート、親の会、就労支援を行う。ひきこもりの初期支援を家庭総合センターはじめ行政が対応し、以降の社会参加や就労といった課題を「チーム絆」の NPO 団体が支援する流れとなっていた。</li> </ul> <p>＜グループ交流＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 テーブルに分かれての交流、意見交換。テーマは「ネットワークとしてつながっていれば、支援の連携ができるのか?」。それぞれのテーブルで活発な意見交換がなされた。1 時間ほど後、各テーブルの内容を共有する。意見はさまざまであったが、共通する点としては「ネットワーク会議を定期的に開催すること」「団体ではなく、支援者間で顔を知っている関係をつくること」があがった。</li> </ul> <p>＜スーパーヴァイザーからのコメント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「チーム絆」のスーパーヴァイザーである目良宣子先生より、グループ交流の様子を見てのコメントがなされた。ひきこもり支援について行政が先導していくことが各団体の活性化につながるの意見からはじまり、自身のひきこもり支援の経験談を熱く語っていただいた。</li> </ul> <p>＜次回開催予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 6 回 全体会議 2 月 18 日（木） 家族の会との交流を予定。</li> </ul> <p>■今後の予定 平成 28 年 1 月 第 3 回ケースカンファレンス 児童生徒支援室・大手前高校より事例提供予定。 以上</p>	

会議の名称	平成 27 年度 枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議 ＜第 6 回 全体会＞
開催日時	平成 28 年 2 月 18 日（木） 14 時 00 分から 16 時 00 分まで
開催場所	ラポールひらかた（枚方市総合福祉会館）3 階 和室
出席者	枚方公共職業安定所：1 人 枚方保健所：1 人 枚方市地域就労支援センター：1 人 児童生徒支援室：1 人 枚方市いきいきネット相談支援センター：2 人 障害福祉室：1 人 枚方若者サポートステーション：2 人 大手前高校：1 人 枚方市障害者就業・生活支援センター：1 人 生活福祉室：1 人 ひらかた市民活動支援センター：1 人 家庭児童相談所：1 人 若者支援全国協同連絡会議：1 人 保健センター：1 人 枚方市社会福祉協議会：1 人 民生委員児童委員協議会：1 人 子ども青少年課：5 人 ネットワーク会議参加者計 25 人 ・内閣府関係：2 人 ・家族会など：5 団体 13 人（2 人はネットワーク会議参加者と重複） NPO 法人つばさの会大阪・イシス大阪・カモミール 登校拒否を克服する会北河内交流会・みんなでつくる学校とれぶりんか
	<p>＜若者支援施策の現状について、内閣府担当者と意見交換＞</p> <p>内閣府より、子ども・若者育成支援推進大綱についての説明。平成 22 年に作成された子ども・若者ビジョンの見直しを行い、平成 28 年 2 月に作成。</p> <p>＜家族会・当事者会との意見交換＞</p> <p>・NPO 法人 つばさの会大阪</p> <p>家族会はカウンセラーを迎えて毎月実施。10 人から 15 人が参加。当事者が 40 代から 50 代、親が 70 代と高齢化している。居場所支援は始めて 2 年になるが、参加者が増えず、思ったような効果は得られていない。就労支援として、税理士事務所にて、勉強しながら働く若者もいる。この会に参加して、気持ちが落ち着いてきたという、家族もおられる。イシス大阪と合同で実施することを検討した過去もあるが、人数が多くなると、会で話せる人も減るために、少ない人数で、いくつかグループがある方が良いということになった。</p> <p>・イシス大阪 家族会</p> <p>NPO 法人として活動していた時は枚方公園近くに居場所を開設していたが、閉鎖している。当時の家族会が自主運営として残っている。主に、当事者が居場所に繋がっていない</p>

親たちが中心になって実施してきた。家族にとって、話せる場所があることが精神的な安定になる。自分がしんどかったことを人に話せるようになるという段階を踏んで、前向きな気持ちになる。

・不登校の親の会 カモミール

平成10年に実施した「お母さん自分を責めないで」という講演会を機に結成した自主グループ。不登校の子どもだが、不登校からはじまったひきこもりの親も参加している。

川崎市が実施しているような幅広い世代の子どもや若者が利用できる居場所があればと思う。居るだけで良いんだということを思えることが大切だと感じる。不登校が悪いことではないことを学んだ。子どもたちには力があることを知ることができた。それでもそばにいる親は苦しいこともある。親の会の仲間が居るからこそ頑張れる。

・登校拒否を克服する会 北河内交流会

偶数月には、北河内で交流会を実施し、奇数月には大阪で交流会を実施している。交流会では登校拒否を持つ親とひきこもりを持つ親に分かれて交流会を実施している。

家族会に参加して、多くを学んだ。ひきこもりが家族の中だけで起こったことではなくて、社会や時代の影響を受けていることとか知ることが出来た。昨年度も意見が出ていたが、家族会や当事者会同士の交流会が出来たらと考えている。

・みんなで作る学校 とれぶりんか

専門部に分かれて活動。障害者・高齢者・健常者のトリプル、子ども・若者・シニアのトリプル、文科系・体育系・福祉系のトリプルで地域のコミュニティを作っている。

参加すると誰かが助けてくれる。いろんな立場の様々な世代の人がいて、ごちゃごちゃしているうちに元気になっていく。

・子ども青少年課

居場所支援について説明。子ども若者相談支援センターの相談者の次のステップとして居場所支援を実施している。

<その他>

次回、4月に開催予定。新年度の初回のため、各機関の紹介を実施予定。

以上



ひきこもり等子ども・若者相談支援センター  
枚方市ひきこもり等地域支援ネットワーク会議  
平成27年度の記録 [資料編を除く]

平成28年12月発行

枚方市 子ども青少年部

子ども総合相談センター **となとな**

枚方市岡東町12-3-410サンプラザ3号館4階

TEL: 050-7102-3228 (直通)

072-843-2255

(ひきこもり等子ども・若者相談支援センター)

FAX: 072-846-7952

e-mail: kodomocenter@city.hirakata.osaka.jp